

## 輝け！いのち 4・24 ヒューマンチェーン アピール

「いつでも、どこでも、誰でも必要な時に、安心して医療・介護が受けられるようにしてほしい」、これは人々の切実な願いです。ところが政府は社会保障の基本的な理念を「自己責任」に変質させ、憲法25条をないがしろにしようとしています。4月から消費税率が8%に引き上げられる一方で、年金や生活保護基準の引き下げが行われ、私たちの暮らしを圧迫しています。

国会で審議が始まった「医療・介護総合法案」には、医療法や介護保険法など、10数本におよぶ法改定が盛り込まれています。本来、一つ一つ丁寧な議論が必要な、人の命に関わる内容をひとまとめにして通そうという乱暴なやり方は断じて認められません。

法案の狙いは、安上がりな医療・介護提供体制をつくることです。患者・利用者には大幅な負担増とサービスの切り捨てが強いられます。要支援の訪問介護などを市町村に丸投げする、特別養護老人ホームの入所対象を要介護3以上に限る、利用料負担を2割に引き上げる、施設入所の補給給付の要件に資産要件が新設されるなど、介護保険制度始まって以来の大改悪が盛り込まれています。そして「入院から在宅へ」のかけ声のもとに、病院ベッドが大幅に削減されようとしています。このままでは入院もできず、必要な介護サービスも受けられません。さらにお年寄りの医療費窓口負担を1割から2割へ引き上げるとしています。こんなことを許すわけにはいきません。「医療・介護総合法案」は廃案しかありません。

こうした事態に「黙ってはいられない」と立ち上がった4名の呼びかけ人を中心に、多くの団体の賛同を得て「輝け！いのち4・24ヒューマンチェーン行動」が本日開催されました。障がい者、患者・利用者、医療介護従事者ら約5,000人が集い、声をあげました。「社会保障を改悪するな」「憲法に基づいて、いのちと健康を守れ」の世論と共同をさらに人きくひろげましょう。

2014年4月24日

輝け！いのちヒューマンチェーン参加者一同